

農業技術 プリズム

二番茶単価の下落や担い手の高齢化などで、一番茶だけ摘採する園や放任園が増えていきます。一番茶摘採後の茶園管理が適正でない園は、翌年以降の収益性が低下するため、放任園が増える懸念があります。そこで翌年一番茶の適正な収量を確保するための更新時期・方法について紹介します。

一番茶摘採後に秋整枝作業を行う時期まで放任した場合、秋芽が伸び過ぎるため翌年の一番茶の減収を招きます。秋整枝後の茶株面の枝条数と着葉密度が減少するからです。

そこで二番茶を収穫しない場合は秋まで放任せず、7月上旬に浅・深刈り作業を行います。

このことにより、秋整枝面での枝条数は二番茶摘採と同程度となり、翌年の一番茶の収量は、二番茶摘採した場合と差はなく、放任園と比較すると20〜30

一番茶だけ摘採する園における適正な整剪枝技術

7月上旬に浅深刈り 早め作業で収量確保

増収します。
浅・深刈り作業で、当年に伸ばした新芽・枝を除くことで、病害虫の被害も除去できま

整剪枝方法の違いによる秋整枝面の枝条構成、年間防除回数および翌年一番茶収量調査結果

一番茶摘採後の整剪枝	秋整枝前の整剪枝		秋整枝面調査		年間防除		翌年一番茶	
	月/日	位置等	枝条数 (/400cm ²)	着葉密度	回数	薬剤数	収量 (kg/10a)	摘芽数 (/400cm ²)
7月上旬 深刈り更新	7/8	前年秋 整枝より-7cm	31	やや密	3	5	334	55
7月上旬 浅刈り更新	7/8	前年秋 整枝位置	31	密	3	5	354	55
秋整枝まで放任	5/4	一番茶摘採	24	粗	1	1	266	45
二番茶摘採	6/30	二番茶後整枝	32	中	5	9	318	—

て防除回数で2回、薬剤数で4剤が削減可能です。
(茶業研究室主任研究員 池下一豊)